

CIEC研究大会 2012PCカンファレンス 2012.8.4 (土)

「ピアインストラクションの実践を通して学生の新しい学びを考える」

基調講演2

学びに関連して見えてくる大学生の現状と成長支援

話の構成:

- ① 学びに関連して見えてくる大学生の現状
- ② 学び成長する学生になるための支援は何か？

溝上 慎一

(京都大学高等教育研究開発推進センター／教育学研究科)

<http://smizok.net/>

E-mail mizokami.shinichi.4u@kyoto-u.ac.jp

1/42

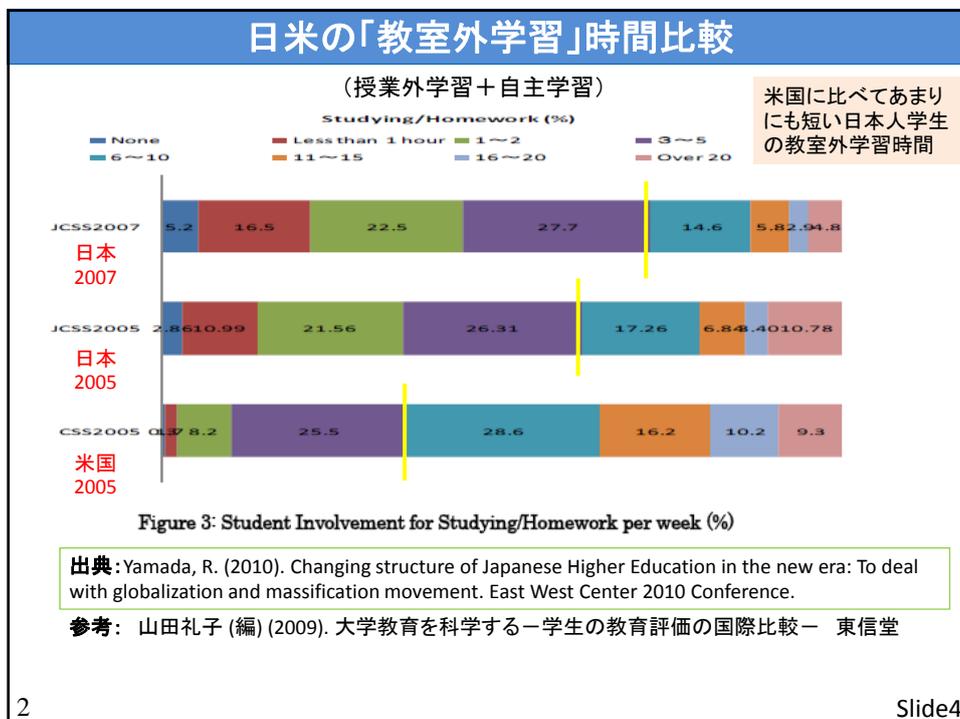
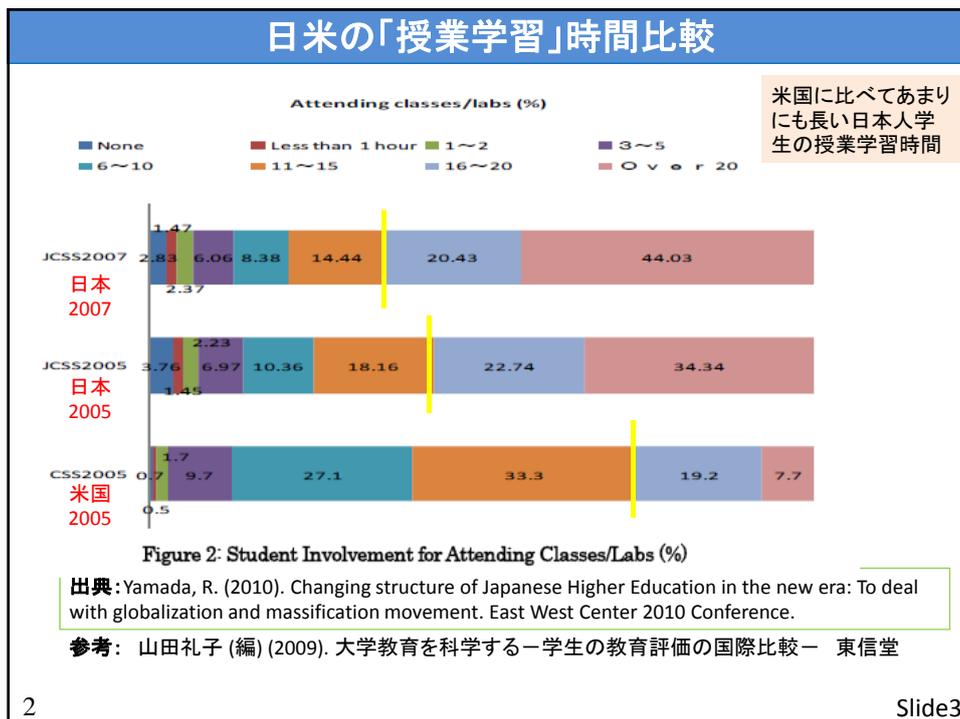
Slide1

今日の話

- ① 学びに関連して見えてくる大学生の現状
- ② 学び成長する学生になるための支援は何か？

*

Slide2



2 **米国の大学生の学習時間は減少傾向(と嘆く)** Slide5

A. すべての学生

		1928	1928	1933	1965	1975	1985	2003
Academic Time	学習総時間	38.3	38.5	39.2	34.1	23.6	18.0	14.2
Study Time	教室外学習時間	-	21.0	-	18.2	11.1	8.9	7.2
Class Time	授業学習時間	-	17.5	-	15.9	12.5	9.2	7.0

B. 正規学生 (Full-time students) のみ

		1928	1928	1933	1965	1975	1985	2003
Academic Time	学習総時間	38.3	38.5	-	-	-	-	23.7
Study Time	教室外学習時間	-	21.0	-	-	-	-	12.1
Class Time	授業学習時間	-	17.5	-	-	-	-	11.6

減少したと嘆く時間は12.1h !

参考: Babcock, P., & Marks, M. (2010). *The falling time cost of college: Evidence from half a century of time use data*. Departmental Working Papers, Department of Economics, UCSB, UC Santa Barbara. (<http://escholarship.org/uc/item/7rc9d7vz.pdf>)

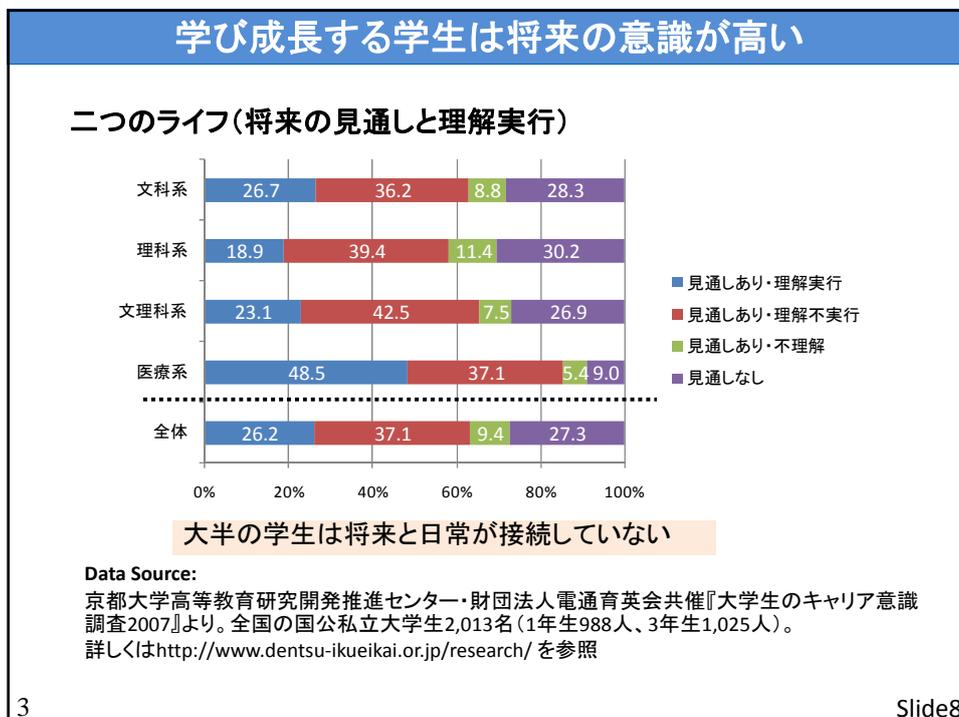
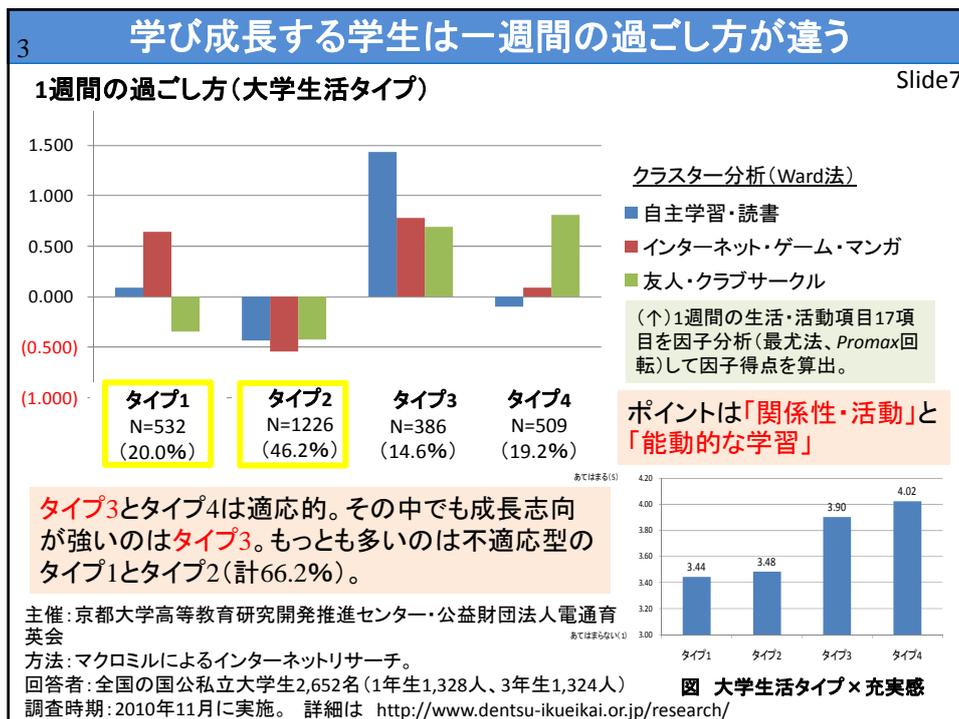
2 **あまりにも少ないEngagementの学生(米国とカナダ)(嘆き)** Slide6

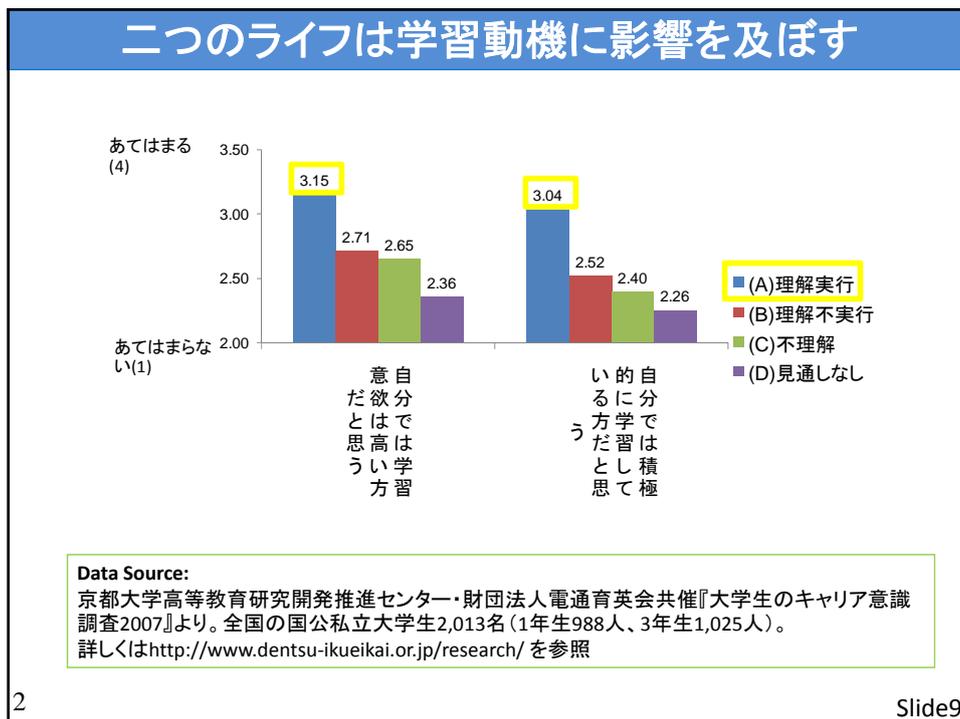
Figure 5.2: Course engagement category in Canadian and America universities: Percentages

Engagement Category	Large - US	Large - CN	Medium - US	Medium - CN	Small - US	Small - CN
Disengaged	~35%	~35%	~35%	~35%	~35%	~35%
Partially engaged	~45%	~45%	~45%	~45%	~45%	~45%
Engaged	~15%	~15%	~15%	~15%	~15%	~15%

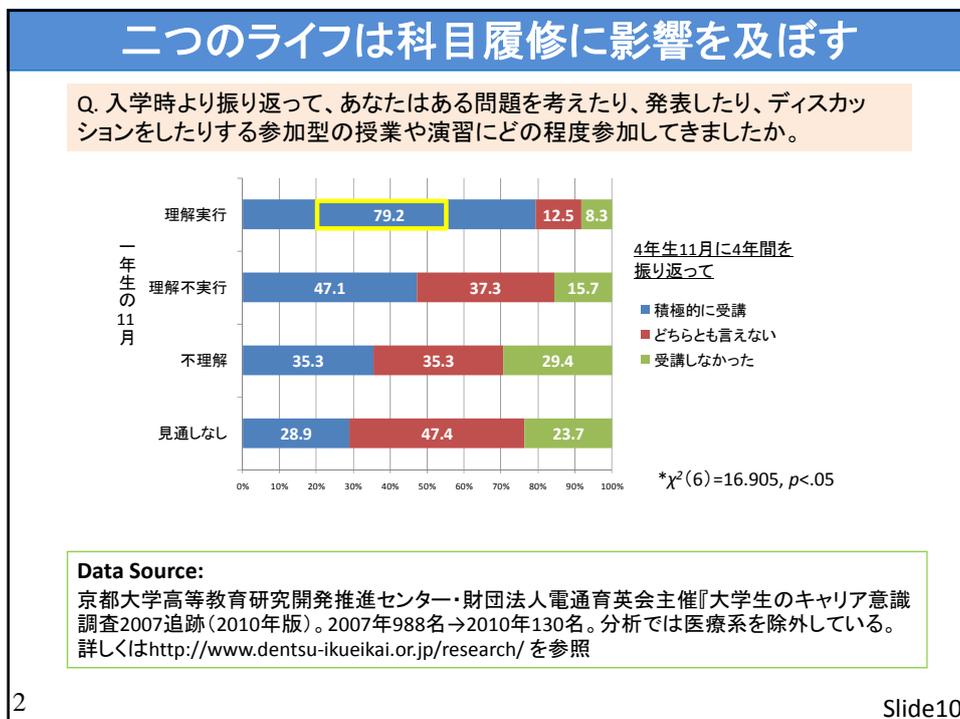
Engagedの学生基準はなんと25h!

参考: Côté, J. E., & Allahar, A. L. (2011). *Lowering higher education: The rise of corporate universities and the fall of liberal education*. Toronto: University of Toronto Press.





2



2

今日の話

- ① 学びに関連して見えてくる大学生の現状
- ② 学び成長する学生になるための支援は何か？

キャリア教育/キャリア形成支援

- ・単なる就活支援にとどまらず
- ・1・2年生のはやい時期からのキャリア教育
- ・正課(学業)と結びつけていくためのプログラム開発

1

Slide11

正課外活動支援

- ・クラブサークル活動
- ・ボランティア、インターンシップ
- ・大学生協の学びと成長事業 など

活動を通して学生が集まり、学年・学部(・大学)を越えて交流する

新入生行事、就活サポート、料理教室、メイク講習会、弁当箱の回収運動など

【POINT】

ひとり娯楽からの脱却。さまざまな他者に出会う。活動する。

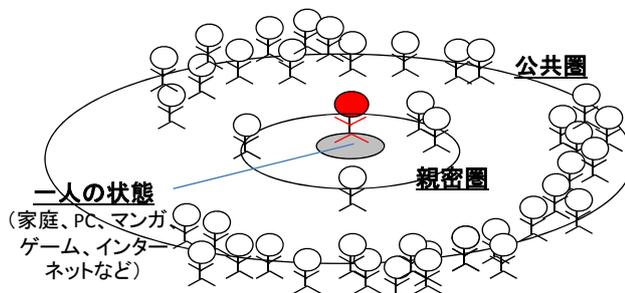
	<p>中国・四国事業連合「公務員試験対策講座 合格サポーター合宿報告」(No.369, 2009DEC)</p> <p>先輩にってもらって嬉しかったことを、今度は自分たちが後輩にしたい</p>	<p>学長賞受賞 オープンキャンパスのとらえかみ</p>		<p>松山東雲女子大・短大生協「メイク講習会」開催しました！</p>
	<p>九州工業大生協「就活をサポート—上級生委員会の取り組み—」(No.361, 2008DEC)</p> <p>弘前大学生協学生委員会「(高校生向け)オープンキャンパス」(No.371, 2010APR)</p>		<p>電気通信大生協学生委員会「学長表彰」(No.364, 2009MAY)</p> <p>*リサイクル容器「はがせる弁当箱」の回収運動*</p> <p>*「電通大クリーンあつぷ大作戦」による環境問題への啓発*</p> <p>*「若手・宮城内陸地震の被災者支援のための募金活動」*</p>	<p>松山東雲女子大生協「メイク講習会」(No.371, 2010APR)</p>

高知大学・大学生協キャリア形成支援事業活動推進全国協議会主催講演「大学の変化と学生の学びと成長支援について—大学と生協との協働を考える—」(2010年9月10日)

3

Slide12

その意味は？より公共圏への活動・コミュニケーション



親密圏と公共圏で異なるのは、コミュニケーションを媒介する知がより共有されているかされていないかにある。

公共圏の人とコミュニケーションするには、
 ・世界観や立場の異なるさまざまな他者への興味・関心
 ・さまざまな知識・教養
 ・国際的には英語力
 が必要

2つの対人コミュニケーションモード

- ・親密圏...親密との他者との関係からなる領域
ex. 旧友、携帯、メール友達
- ・公共圏...親密ではない、しばしば見知らぬ他者との関係からなる領域
ex. クラスメート、ゼミ、ビジネスなど

参考: 浅野智彦 (編) (2006). 検証・若者の変貌—失われた10年の後に— 勁草書房

3

Slide13

授業でも支援する！「教える」から「学ぶ」への教育観の転換

“From Teaching to Learning” (cf. Barr & Tagg, 1995; Tagg, 2003)

授業の中で(異質の)他者と出会わせる(アクティブラーニング)



KUINEP科目 (“Universities and University Students in Today's Japan”
 “Self Formation in Adolescence”)



全学共通科目 (「自己形成の心理学」「現代青年期の心理学」)

参考: 溝上慎一 (2012). 学生の学びと成長 京都大学高等教育研究開発推進センター (編) 生成する大学教育学 ナカニシヤ出版 Pp.119-145.

2

Slide14

アクティブラーニング型授業

「アクティブラーニング」の定義:

授業者からの一方向的な知識伝達型授業(学習者の受動的な学習)から、学習者の能動的な学習を取り込んだ授業への転換を目指す教育政策用語。「アクティブラーニング型授業」等として使用されるべきである。

AL型授業の質を高める装置(授業)

- 書く・話すというアウトプットの活動(コメント用紙、レポート、ディスカッション、討論、プレゼンテーションなど)
- さまざまな他者(学生同士、教員、専門家・地域住民など外部者など)の視点を取り入れ、自己の理解を相対化させる
- 宿題・課題を課す(授業外学習)
- 新たな知識・情報・体験へアクセスさせる(調べ学習、体験学習)
- リフレクション(形成的・総括的評価)
- 多重評価(小テスト、質問、プレゼンテーション、学生同士のピア評価など)

POINT:

- ・(課題・他者)への積極的関与
Active Involvement
- ・公共圏の他者とのコミュニケーション
Active Communication



参考:

溝上慎一(2011). アクティブラーニングからの総合的展開—学士課程教育(授業・カリキュラム・質保証・FD)、キャリア教育、学生の学びと成長— 河合塾(編) アクティブラーニングでなぜ学生が成長するのか—経済系・工学系の全国大学調査からみえてきたこと— 東信堂 pp.251-273.

3

Slide15

ピアインストラクション (Peer Instruction)

エピソード:

「大型トラックと軽自動車があつかつたときの力の作用・反作用について説明しなさい」という問題を出したら、学生は「授業ではこんな問題は扱わなかった」と不満。

Dr. Eric Mazur

Harvard Professor of Physics

- ・テキスト
- ・基礎物理学テスト(ConcepTest)
- ・クリッカー
- ・ピアディスカッション

3

Slide16

5

全学共通科目「自己形成の心理学」

2012年度前期 主に1-2年生225名

授業デザイン(90分)

- ・前回のミニレポートから質問受け(10分)
- ・**ピアディスカッション用のグループ分け**(1分)
(3人を目標に/左に座っている人は司会)
- ・**ウォームアップ**(10分)
 - ークリッカー(前回の復習)
 - ーピアディスカッション
(簡単な自己紹介+あなたの回答は?)
- ・**クリッカー課題** (授業の導入になるような質問)
- ・授業内容(40-45分)
- ・ミニレポート(20-30分)

アクティブラーニング型授業

- ・理解したことを自分の言葉で書く...毎回のミニレポート
- ・ピアディスカッション(毎回)
- ・2回のロングディスカッション(50分)







Slide17

そして、もう一つ: 知をふまえたアクティブラーニング

学習への深いアプローチ

(Deep Approach to Learning, Ference Marton)



Ference Marton

アクティブラーニング

学習の**形態**を強調

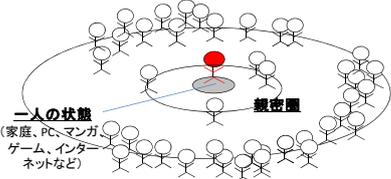
学生参加、協同/
協調学習、問題
解決

ディープラーニング

学習の**質**を強調

概念を既有知識や経
験と関連づける

参考: エントウイスル, N. 山口栄一訳 (2010). 学生の理解を重視する大学授業 玉川大学出版部



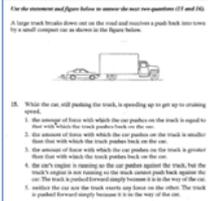
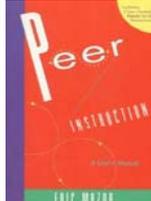
一人の状態 (家庭、PC、マンガゲーム、インターネットなど)

親密圏

POINT:

- ・公共圏の知を介在させて(Active Involvement)、Active Communication

(For the assessment and figure follow to answer the next two questions (27 and 28).)

なんと、本のほとんどのページ(pp.43-242)はクリッカー課題(+ConcepTest)で占められている!

参考: Mazur, E. (1997). *Peer instruction: A user's manual*. New Jersey: Prentice Hall.

Slide18

まとめ

① 学びに関連して見えてくる大学生の現状

あまりに短い授業外学習時間／学び成長する学生は(1)一週間の過ごし方、(2)将来の意識 が違う

② 学び成長する学生になるための支援は何か？

正課外活動支援／授業での支援(アクティブラーニング)／Active Involvement・Active Communication／ピアインストラクションの開発／知をふまえたアクティブラーニング

ご清聴有り難うございました

2

Slide19

興味があればお読みください

溝上慎一 (2006). 大学生の学び・入門—大学での勉強は役に立つ！— 有斐閣アルマ.

【関連】学習やキャリア意識をいかに日常課題とさせるかを論じた本。初年次教育テキスト。



溝上慎一 (2010). 現代青年期の心理学—適応から自己形成の時代へ— 有斐閣選書

【関連】青年期の現代への変貌を歴史的・社会的に概説しつつ、学習やキャリアが、大学生にとっていかに現代的な青年期課題になっているかを説明したもの。



クリッカーに関する問い合わせ

【連絡先】 ㈱内田洋行 西日本大学営業部

担当: 日紫喜、土井

電話: 06-6920-2487

*溝上に問い合わせてもかまいません。

Fax: 06-6920-2788

mizokami.shinichi.4u@kyoto-u.ac.jp

講師プロフィール

1970年生まれ。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学高等教育教授システム開発センター助手・講師を経て、2003年より京都大学高等教育研究開発推進センター准教授。京都大学博士(教育学)。

大学院教育学研究科兼任。大阪府立大学学長補佐兼任。



<http://smizok.net/>

日本青年心理学会理事、日本発達心理学会理事、日本心理学会地域別代議員(近畿)、大学教育学会常任理事、『青年心理学研究』編集委員、『発達心理学研究』編集委員、『教育心理学研究』常任編集委員、『*Journal of Adolescence*』Editorial Board、『*International Conference on the Dialogical Self*』Scientific Committee。公益財団法人電通育英会大学生調査アドバイザーほか。

専門は、青年心理学(現代青年期、自己形成、自己の分権化、アイデンティティ資本など)と高等教育(大学生の学びと成長、アクティブラーニング、学校から仕事へのトランジションなど)。著書に『自己形成の心理学－他者の森を駆け抜けて自己になる』(2008世界思想社、単著)、『現代青年期の心理学－適応から自己形成の時代へ』(2010有斐閣選書、単著)、『大学生の学び・入門－大学での勉強は役に立つ！』(2006有斐閣アルマ、単著)など多数。